

# 農時新聞

2013年  
(平成25年)

1月10日

木曜日

5号

(毎月10日発行)

旬感印刷

新聞印刷/商業印刷/DTP

品質とスピードをモットーに

株式会社 日刊スポーツ印刷社

〒104-0045 東京都中央区築地7-8-5

電話: 03-5550-8210・8211

http://www.nikkansp.co.jp/

- 23 ▶ 久喜東口住民 道路整備を請願へ
- ▶ 高島屋の福袋「田植え稲刈り体験」
- 4 ▶ 「円空」展10組20名様読者プレゼント
- ▶ 風雅・風流・和歌列歌

発行所 〒346-0016 埼玉県久喜市久喜東2-4-1(株)フジハウジング内 TEL0480-26-4568 FAX0480-21-0970

## 賀正



### 初詣

久喜・吉羽天神社

あけましておめでとうございます。新しい年2013年の門出を皆さんとともに祝いたいと思います。お正月と言えば初詣。この神社も「景気低迷」「閉塞感」などの世相を反映して「今年こそは...」と願う人々でいっぱい。ここ久喜市吉羽天神社では新年を迎えた零時を過ぎると善男善女が続々と参拝に訪れ、神殿の前で「二拝二拍手一拝をして」「家内安全」「無病息災」「商売繁盛」などを祈願したあと同神社藤沼宮司などからお祓いを受けていた。

ところで「食」の現状だが、お寒い状況が依然として続く。農林水産省によると、担い手の平均年齢は2010年が66・1歳だったが2030年には71・7歳になると予測。販売農家の戸数も2010年1603万戸が20年後には64%減の58万戸に減少すると見込む。これは農業では食べられないと後継者を欠くことが最大の原因で実に水田の40%が耕作放棄地になっている。農業純産出額も1984年の11・7兆円が2010年には30%減の8兆円になった。

ただ日本の農業の将来が全く暗いとは言えなさずでもない。東日本大震災後とくにそうだが人間とは何か、食とは何か、その生き方や価値にスポットが当たってきたためだ。食の安全を求めて都市近郊では高くても良質な農産物を食べようと特定農家と契約する動きや、農村に行くと人間らしさを味わおうという人たちが出てきた。また農業で日本再生させようと新規参入するNPOや企業も目立ち始めた。

埼玉県加須市で農業生産法人を立ち上げた誠誠農社もそのひとつ。代表の藤田誠二氏は今年の抱負として「昨年引き続き漢方農法を活用したコメ作りや田植え、稲刈りなどの体験企画を開催するほか、農への新たな挑戦として休耕地を使って身体にいいイチジク栽培に挑戦したい」と語る。

今までも、そしてこれからも

## スポーツLOVE

頑張るあなたを応援します

### 日刊スポーツ

月々 1カ月3,260円(税込)

購読のお申し込みは ☎ 0120-81-4356

加須市久下

建築条件なし 売地

# 550万円

■近隣にはスーパービバホーム、ドラッグストア、スーパーカスミなどが充実



物件概要  
所在地/加須市久下4丁目42-33 交通/東武伊勢崎線「花崎」駅徒歩20分 価格/550万円 敷地面積/132.76㎡ (40.15坪) 道路幅/北側6m 公道 権利/所有権 用途地域/第一種中高層住居専用 地積率/60% 容積率/200% 設備/公営水道・下水道・プロパン 状況/更地 引渡/即可能 取引形態/媒介 広告有効期限/平成25年1月31日

ガーデニングも 充分できるよ!



株式会社 フジハウジング

TEL 0480-26-4568

# 旧暦のすすめ④

## 今年は昨年より季節が穏やかに進む

「旧暦は季節を感じる道しるべ。日本人は季節の変化には敏感。それに適したのが旧暦です」と今から26年前の1987年に旧暦(太陽暦)カレンダーを115年ぶりに我が国で復活、販売した社団法人大阪南太平洋協会理事長の松村賢治さんは常々「二十四節気が旧暦の日付のどこにくるかでその年の傾向は分かる」と指摘してきました。

そこで新年早々のこのシリーズでは松村さん制作の「2013年版旧暦カレンダー」でそのことを検証してみましよう。

ところで元旦になると「新春を祝う」と表現しますが、これも旧暦と関係があります。旧暦の四季の区

季節	24節気	新暦	旧暦
春	立春	2月 4日	前年12月24日
	雨水	2月18日	1月 9日
	啓蟄	3月 5日	1月24日
	春分	3月20日	2月 9日
	清明	4月 5日	2月25日
夏	穀雨	4月20日	3月11日
	立夏	5月 5日	3月26日
	小満	5月21日	4月12日
	芒種	6月 5日	4月27日
	夏至	6月21日	5月13日
秋	小暑	7月 7日	5月29日
	大暑	7月23日	6月16日
	立秋	8月 7日	7月 1日
	処暑	8月23日	7月17日
	白露	9月 7日	8月 3日
冬	秋分	9月23日	8月19日
	寒露	10月 8日	9月 4日
	霜降	10月23日	9月19日
	立冬	11月 7日	10月 5日
	小雪	11月22日	10月20日
	大雪	12月 7日	11月 5日
	冬至	12月22日	11月20日
	小寒	翌年1月 5日	12月 5日
	大寒	翌年1月20日	12月20日

また旧暦博士の松村賢治さんは、本年2013年を評して「旧暦には2〜3年に1回独特の閏月が入るが2013年はそれもない年です。久しぶりに天候順調で四季らしい四季が来ると思う」「今年の春は新暦の2月10日から5月9日頃まで、夏は5月10日から8月6日、秋は8月7日から11月2日、冬は11月3日から来年1月30日で推移すると「旧暦(太陽暦)は月の1年を太陽年365日にあわせるため、19年に7回同名月を加え、1年を13カ月にする必要があります。」との挿入月を「閏月」と称しており、2〜3年ごとに1年が13カ月になる「閏年」を設けています。その関係で2012年は閏3月が入り1年は384日でした。しかし今年2013年は閏月もなく355日です。またその年の季節変化を表す言葉として松村さんは「昨年春は早い季節の変化は遅れ気味の「天行緩行」でしたが、今年は季節の進みは穏やかな意味の「季節穏風」としました。」

(取材協力・資料提供) 社団法人大阪南太平洋協会理事 松村賢治氏

# 地区活性化には道路整備急務

## 久喜東口 住民有志 3月議会に請願書提出へ

JR・東武線久喜東口地域の活性化を図るためには都市計画道路「東停車場線」と「平沼和戸線」の整備促進が急務として東地区の住民有志が3月議会に請願書を提出する準備に入った。

請願書によると、久喜市内の幹線道路網は南北に「さいたま栗橋線」と「御成街道」があり、東西に「久喜幸手線」と「春日部葛蒲線」があるだけ。

このため「久喜幸手線」は中央4丁目地区にある大型スーパー・イトーヨーカ堂の影響で渋滞が日常茶飯事。また「春日部葛蒲線」はJR宇都宮・東武伊勢崎線の踏切があるため、これ

まで始終渋滞していたが、この解消に向け埼玉県が06年から11年にかけて85億円を巨費を投じて通称四軒通り地区に陸橋を建設した結果、渋滞は一時解消した。

しかし昨年11月24日に久本寺地区に大型ショッピングモール「Ario 鷺宮店」が開店したため、再度渋滞が発生し出したと語る。

## 「本多静六記念館」誕生

### 久喜市 4月に葛蒲総合支所内に

久喜市は「埼玉県の偉人」と言われる日本最初の林学博士・本多静六氏の業績などを展示紹介する「本多静六記念館」を来月4月に開設する。本多博士は、明治から昭和にかけて日比谷公園を始

東松山からまでを結ぶ圏央道が開通予定となっていることを総合的に考えると、そこで東地区内の都市計

画道路「東停車場線」(幅員20m)と「平沼和戸線」(幅員16m)の速やかな整備が渋滞解消策の特効薬になるとして市議会議長に請願書を提出することにした。

東地区の住民有志は「この都市計画道路が整備されれば交通渋滞の解消にとまらず、東口でくまなく受け皿になるべき現状久喜東地区のまちづくりに光明が差し込むと地元商業の振興発

展にも大きく貢献する」としている。

市では博士の業績、人柄を広く市民、県民に知ってもらうため、今から12年前の2000(平成12)年4月に葛蒲文化会館の2階に「本多静六記念室」を設けているが、約20㎡と手狭なことや今年が博士没後60年という節目の年に当たることから文化会館からの移転を決めたもの。

## 久喜・折原貞夫さん(64)



「一生の仕事を見出した人は幸せである。彼にはもう他の幸福を探させる必要はない」。こう語ったのはイギリスの思想家のカール・ポパーだが、定年後も教員とお百姓さんの二足のわらじ生活を築きつづる久喜市吉羽在住の折原貞夫さんは稀なる半農半Xの実践者だ。

折原家は代々農家だが自身は大学院卒業後、東京都内の公立高校の教師となった。しかし身体には脈々と100年は優に超える農家の血が流れているだけに60の定年を迎えたのを機に学校は週に2〜3日、あとは農業の生活をスタートさせた。

先生とお百姓さんには共通するものがあるという。それは根気と丁寧さだ。教員は根気よく丁寧に教えれば子どもたちは著しく成長する。農業も根気強く丁寧に手入れなどを怠らねば必ず見返りが得られると語る。耕作面積は1町5反(約1万5千㎡)。コメと野菜を作る。「これで家族4人分の食料は基本的にはほとんど賄える」とニコリ。しかもナス、キュウリなどの野菜類は近所の農協に出荷することで毎月それなりの収入が得られるというから一石二鳥だ。

今年の抱負を尋ねると「耕作面積の規模拡大」と話す。今春には二足のわらじ生活が一本になるかもしれないとかで「そうしたらフル回転で農業一本に集中できる」と新生活に期待をかける。

## 豊かに生きよう “半農半X”

に設ける本多静六記念館は、入場も現行同様来年4月ごろになる。広さ 無料にする」と話している。現行の10倍の約200㎡。

## 新聞協会のイベント 「農時新聞」も展示



先端の新聞制作を一同に集めて展示する新聞技術界最大のイベントは3年ぶり21回目。出展社数は過去最多の60社・団体。今回の統一テーマは「読む 見る つたえる 今新しい新聞技術」。農時新聞が印刷された

# 自分と仲間とで野菜を作ろう！ 農園サークル入会者募集

利用期間	平成25年3月1日～平成25年8月31日
参加費用	3,000円/年
入園料	6,000円/半年 (1名様)
区画数	誠農場割目農園12区画 (1区画6人)
申込期限	平成25年2月28日
申込・問合せ先	農業生産法人 株式会社 誠農社 〒347-0026 埼玉県加須市油井ヶ島1393-1 tel 0480-53-4651 fax 0480-53-4652



私たちと一緒に栽培・収穫体験をしてみませんか？

農業生産法人  
sei-nou-sha (株)誠農社



